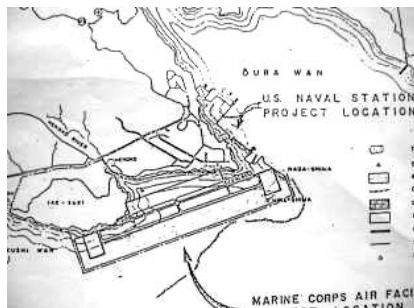


沖繩からの風2

真喜志好一さん

入手した資料はまさしく1996年に辺野古の計画が存在したことを伝えている。左図



矛盾なく計画は繋がっている。普天間は危険だから沖繩に返し、その代わりに辺野古に作るという日米両政府の説明は逆だ。
★かねてからの計画である辺野古海上基地を完成し、要らなくなる普天間は返す、という米軍基地基地の強化計画なのだ。

東村高江のヘリパッド(ヘリコプター)の簡易着場(建設計画)

沖繩島の北の地域を「ヤンバル」と呼び習わしている。かなりの面積を米軍のジャングル訓練場が占めている。



る。その中には20箇所あまりのヘリパッドが作られており、海兵隊員をへ

1996年海兵隊十海軍計画、1997年国防総省構想、2005年合意案として2006年V字形案へ、リコプターからロープで降ろしたり、空と陸を結ぶ訓練を行ってきた。1996年12月2日のSAC合意で、北部訓練場の北半分を沖繩に返還し、そこにある7ヶ所のヘリパッドを使用を続ける訓練場(緑の部分)に移設する、との合意がなされた。移設条件付の返還・普天間、辺野古問題と似た構図である。

この地域、東村高江の人々は水源と命が脅かされる、と反対の声を上げた。1999年発表された7ヶ所のヘリパッド予定地周辺はきわめて自然度の高い地域であると学者たちは指摘している。「琉球列島動物分布調査チーム」の学者8名が同年計画の見直しを求めた。

この要望書によって計画の変更を余儀なくされ、5年間ほど静かになり、そのまま計画が棚上げになるかにみえたのだが・・・
2006年2月末から、日本政府・那覇防衛施設局が、この地域で場所をずらし数を6ヶ所としたヘリパッドの建設計画を発表した。SAC合意に従って、安波ダムに周

辺にあつた訓練場を沖繩に返還し、その代わりに1997年12月、北部訓練場提供水域として米軍は宇嘉川流域と太平洋の一部を新たに手に入れた。その提供水域とヘリパッドとを結ぶ歩行ルートが描かれている。何故だろうか？

この区域は太平洋に面して100mほどの断崖が続いており、陸から海へのアクセスができない。宇嘉川の河口だけが右写真に示すように唯一断崖が切れた地形である。干潮時の写真である。かねてからこの川の流域と河口を米軍はねらっていたものと考えられる。なぜか？

河口への歩行ルートの謎を解き明かすのが次の米軍が作成したイラストだ。米軍のホームページで見つけたのは1999年の夏であつたか。3機のオスプレイがゴムボートを海辺に下ろしている。宇嘉川河口とそ

つくりの地形ではないか。海から上陸して歩行



ルートを経て空に脱出する。あるいはその逆の訓練を行う。そのために、

安波ダムの水ベリ訓練場を返し宇嘉川河口から太平洋を新たな訓練場として手に入れたのだ。オス



四つの基地の移設条件付の謎の答えの一つがここにあった。

「ヘリパッドを高江に移設した後」の北部訓練場の部分返還と、「海に繋がる訓練場取得した後」の安波訓練場の返還は繋がっていたのだ。

沖繩の海も陸も空も、1945年以来、戦争をし、人殺しをする兵士たち(自衛隊も)の軍靴のもとにある。そのことに、日本の人たちは思いをよせたことがあるだろうか。

人口150名ほどの静かな東村高江(ひがしそん・たかえ)の人々、そして我が事として共鳴する人たちがヘリパッド建設への反対運動を続けている。

やんばる東村 高江の現状
<http://takee.ti-da.net/>